

低価格入札は重要課題

閣僚参加の場で議論も

衆院予算委で福田首相

福田首相は、2月29日に開かれた衆院予算委員会で、「公共投資の減少により、建設業の競争環境が著しく変化し、過度な価格競争、低価格入札という現象が起きている。このことにより、公共工事の品質が劣化するようなことがあってはならない。重要な課題と認識している」との見解を示した。その上で、「公共工事の品質確保の促進に関する関係官庁連絡会議を開き、政府が一体となって当面取り組むべき課題を検討している。関係閣僚の参加する場での議論も視野に入れながら、実施可能な施策から速やかに実施していきたい」と述べた。

福田首相の発言は、自民党の公共工事品質確保に関する議員連盟制度検討部会長を務める金子一義衆院議員の質問に対する答弁。同議員は、東北のある県建設業協会各社の経営状況をまとめたデータを提示した上で、「いずれも大幅な減益あるいは赤字に陥っている」と地方建設企業の疲弊を訴えた。

低入札調査基準価格に応札額が集中し、くじ引きで落札者が決まってしまう。これでは仕事が取れるかどうか分からず、会社の経営を天に任せるような状況」という沖縄建設業協会会長の言葉を紹介し、「それぞれの地域で優良な技術者を持った人たちが頑張っているような環境がつけられるように、（品質確保の）提言を関係各省の事務方だけ